

2022年 結核登録者情報調査年報集計結果について

当該年報は、2022年1月1日から同年12月31日の間に、新たに登録された結核患者及び潜在性結核感染症(LTBI)の者と、2022年12月31日現在に登録されているすべての登録者に関する状況について、感染症サーベイランスシステム(NESID)上の結核登録者情報システムに全国の保健所から入力されたものを、「結核登録者情報調査年報」として取りまとめたものである。

～表ごとの解説～

【表1 諸外国と日本の結核罹患率について】

2022年の結核罹患率(人口10万対)は8.2であり、前年と比べ1.0の減少となっている。前年に結核罹患率は9.2と結核低まん延国の水準である10.0以下に達したが、2022年も継続している。

日本の結核罹患率は、米国等他の先進国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

2020年からの結核罹患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。

【表2 結核罹患率の都道府県別おもな順位について】

都道府県別の結核罹患率(人口10万対)は、大阪府、大分県、長崎県、徳島県、和歌山県の順に高く、福島県、山形県、新潟県、岩手県、長野県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は12.7であり、最も低い福島県の結核罹患率4.6の2.8倍となっている。

【表3 結核の死亡数及び死亡率の年次推移について】

2022年の結核による死亡数は1,664人(概数)で、前年の1,845人に比べ181人減少している。死亡率(人口10万対)は1.4で前年から0.1減少している。

【表4 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移について】

- (1) 2022年に、新たに結核患者として登録された者の数(新登録結核患者数)は10,235人で、前年より1,284人(11.1%)減少している。減少率を見ると、2021年の前年からの減少率は9.6%(12,739人→11,519人)の減少であったが、2022年の減少幅は1.5ポイントの拡大となっている。(表4-1)

- (2) 2022年の結核罹患率（人口10万対）は8.2であり、前年の9.2より1.0（10.9%）減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態が継続している。減少率を見ると、2021年の前年からの減少率は8.9%であることから、減少幅は2.0ポイントの拡大となっている。（表4-1、図1）
- (3) 喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は3,703人で、前年より424人（10.3%）減少している。（表4-2）
- (4) 喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は3.0であり、前年の3.3より0.3減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は36.2%で、前年から0.4ポイントの増加となっている。（表4-2）

【表5 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数および潜在性結核感染症新登録者数について】

- (1) 年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核は35人で前年から6人（20.7%）の増加となっている。0～4歳と5～9歳以外の年齢階級では新登録結核患者数は減少となっている。減少数が最も大きかったのは80～89歳で281人（8.2%）の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が30.9%と最も大きくなっている。90歳以上は209人の減少で、これまでの増加傾向にあった全体に占める割合も13.9%と0.3ポイントの減少となっている。（表5-1）
- (2) 年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、0～14歳の小児結核の発生は2人となっている。1人の増加であった5～9歳を除いた他の年齢階級では患者数は減少となっている。減少数が最も大きかった年齢階級は80～89歳で133人（9.7%）の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が33.5%と最も大きくなっている。
（表5-2）
- (3) 小児結核患者（14歳以下）のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者の2022年での発生はなかった。
（表5-3）
- (4) 2022年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,025人で、前年より115人（2.2%）の減少となっている。0～4歳は279人

で、全体の5.6%となっている。最も登録者が多かった年齢階級は70～79歳の1,093人で全体の21.8%となっており、60歳以上が52.0%と半数以上を占めている。（表5-4）

- (5) 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では5.3以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は13.3となっている。また、15歳以上の年齢階級は全て1.0以下となっており潜在性結核感染症新登録患者数の方が少なくなっている。

（表5-5）

- (6) 職業別では、2022年の潜在性結核感染症新登録者における医療職（看護師・保健師、医師、その他の医療職）は857人で、割合は17.1%となっており、前年の19.6%から2.5ポイントの減少となっている。一方、無職・その他の割合が、前年の41.7%から43.5%に増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の割合は11.2%で、前年の9.1%から2.1ポイントの増加となっている。（表5-6）

- (7) 外国生まれ新登録結核患者数は、前年から99人減少して1,214人となっている。しかし、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は11.9%と前年の11.4%から0.5ポイントの増加となっており、増加傾向が続いている。20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて73人の減少で602人となっているが、同年齢階級での割合は77.5%と前年から4.9ポイントの増加となっている。30～39歳では外国生まれ新登録結核患者数は3人減少して273人となったが、割合は前年の46.2%から54.3%と8.1ポイント増加し、同年齢階級で半数以上を占めている。

（表5-7）

- (8) 外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の568人から55人減少し513人となっている。最も患者数が多い20～29歳の年齢階級では、前年から27人減少して357人となっている。（表5-8）

- (9) 日本生まれ新登録結核患者数は、前年の9,809人から1,136人減少して8,673人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く3,016人で日本生まれ新登録結核患者の34.8%となっている。10歳以上の年齢階級では患者数は減少となっており、減少数が最も大きかったのは80～89歳で258人の減少となっている。90歳以上も2020年以降は減少となり、2022年は210人減少して1,356人となっている。（表5-9）

【表6 年次別・年齢階級別 結核罹患率について】

- (1) 年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は6.1で全年齢の罹患率より低い、70～79歳で12.6、80～89歳で32.6、90歳以上では54.0となっている。全体としては年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。（表6-1）
- (2) 菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満だが、80～89歳で12.8、90歳以上では22.9となっている。（表6-2）
- (3) 新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.9減少の7.1となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は1.4、30～39歳で1.7となっており、全体の罹患率からは低くなっている。（表6-3）

【表7 新登録結核患者数及び結核罹患率 都道府県別・年次推移について】

- (1) 都道府県別の新登録結核患者数は、47都道府県のうち11の県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,193人で、次いで大阪府の1,118人となっている。（表7-1）
- (2) 都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち11の県で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県の数は、40に達している。最も低い福島県の罹患率は4.6となっている。罹患率が最も高い大阪府は12.7で福島県の2.8倍となっている。（表7-2）

【表8 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移について】

2022年末現在の結核登録者数は24,555人と、前年の27,754人より3,199人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は6,782人と、前年より962人減少している。また、2022年末の結核有病率は、前年の6.2から0.8減少し、5.4となっている。（表8）

【表 9～表 15 新登録結核患者の疫学的特徴について】

＜再治療者＞

2022年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の460人から76人減少して384人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は122人、2020年以降の者は125人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち64.3%となっている。（表9）

＜発見の遅れ＞

（ア） 2022年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年から0.9ポイント減少して19.9%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は32.4%で、前年から6.5ポイントの減少となっている。（表10-1）

（イ） 診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、前年から1.6ポイント減少して21.5%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は13.5%で、前年から3.0ポイントの減少となっている。（表10-2）

（ウ） 発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、1.5ポイント減少して20.5%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は29.5%で、前年から6.6ポイントの減少となっている。（表10-3）

＜薬剤耐性＞

2022年の新登録肺結核培養陽性結核患者5,231人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者（INH、RFP両剤感受性検査結果判明者）は4,086人で、割合は78.1%となり、前年の77.1%から1.0ポイント増加となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数（INH、RFP両剤耐性の者）は26人で、前年より15人の減少となっている。また、多剤耐性肺結核患者26人のうち、14人が外国出生患者となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.5%で前年から0.2ポイント減少となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤（HRSE）全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.5%となっている。（表11）

<糖尿病、HIV合併>

2022年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,614人で、新登録結核患者の15.8%となっている。また、HIV検査を実施した患者は633人で、新登録結核患者の6.2%にあたり、このうちHIV陽性は25人で、新登録結核患者の0.2%となっている。(表12)

<医療従事者>

(ア) 2022年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は113人で、前年の116人から3人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.1%と前年から0.1ポイントの増加となっている。年齢階級別では、40～49歳が最も多く33人となっており、同年齢階級新登録結核患者の6.0%となっている。
(表13-1)

(イ) 2022年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は20人で、前年より7人減少となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。30歳から69歳の年齢階級別新登録結核患者中割合は0.4～0.7%となっている。(表13-2)

(ウ) 2022年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は192人で昨年の212人から20人の減少となり、新登録結核患者のうちの割合は1.9%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く54人で、同年齢階級新登録結核患者の6.9%となっている。(表13-3)

<無職臨時日雇など>

2022年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は513人で、前年の600人から87人減少している。新登録結核患者のうちの割合は20.0%で前年から0.1ポイントの増加となっている。年齢階級別での患者数は、55～59歳が最も多い114人で、同年齢階級の31.6%となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の年齢階級別割合においても55～59歳が最も高く35.2%となっており、前年から5.6ポイント増加となっている。(表14-1、14-2)

<治療成績>

2021年の新登録結核患者の2022年末での治療成績は、治療成功が64.2%、死亡25.5%、失敗0.1%、脱落・中断1.7%、転出2.6%、治療中5.6%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割

合が増加し、60～69歳で9.8%、70～79歳で21.6%、80～89歳で39.1%、90歳以上で58.3%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は77.9%～100.0%となっている。脱落・中断は40～49歳で最も高く2.2%となっている。（表15－1）

2021年の新登録再治療結核患者の2022年末での治療成績は、治療成功が65.4%、死亡22.6%、失敗0.0%、脱落・中断3.0%、転出2.6%、治療中6.3%、不明0.0%となっている。（表15－2）

2021年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2022年末での治療完了率は85.2%となっている。脱落・中断は6.9%となっているが、高齢になるにつれて脱落・中断は高くなる傾向があり、80～89歳では8.3%、90歳以上では12.0%となっている。（表15－3）

2020年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2022年末での治療成績は、対象55人のうち治療成功70.9%、死亡18.2%、失敗0.0%、脱落・中断0.0%、転出7.3%、治療中1.8%、不明1.8%となっている。（表15－4）

表 1. 諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
米 国	2.6	2021
スウェーデン	3.8	2021
デンマーク	3.8	2021
オランダ	4.4	2021
イタリア	4.9	2021
ドイツ	5.0	2021
カナダ	5.3	2021
英 国	6.3	2021
オーストラリア	6.5	2021
フランス	7.7	2021
日 本	8.2	2022
韓 国	44	2021
シンガポール	48	2021
中 国	55	2021
タイ	143	2021
ベトナム	173	2021
ネパール	229	2021
インドネシア	354	2021
ミャンマー	360	2021
フィリピン	650	2021

諸外国のデータは、下記より引用

World Health Organization “TB country, regional and global profiles”

https://worldhealthorg.shinyapps.io/tb_profiles/

2023年7月28日アクセス

日本以外はWHOによる推定罹患率

2022年の結核罹患率（人口10万対）は8.2であり、前年と比べ1.0の減少となっている。前年に結核罹患率は9.2と結核低まん延国の水準である10.0以下に達したが、2022年も継続している。

日本の結核罹患率は、米国等他の先進国の水準に年々近づき、近隣アジア諸国に比べても低い水準にある。

2020年からの結核罹患率の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。

表 2. 結核罹患率の都道府県別おもな順位

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5都道府県	福島	4.6
	山形	4.6
	新潟	4.9
	岩手	5.1
	長野	5.2
罹患率の高い5都道府県	大阪	12.7
	大分	10.8
	長崎	10.7
	徳島	10.7
	和歌山	10.4

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率（人口10万対）は、大阪府、大分県、長崎県、徳島県、和歌山県の順に高く、福島県、山形県、新潟県、岩手県、長野県の順に低くなっている。大阪府の結核罹患率は12.7であり、最も低い福島県の結核罹患率4.6の2.8倍となっている。

表3. 結核の死亡数及び死亡率の年次推移

年次	死亡順位	死亡数	死亡率
1950年	1位	121,769	146.4
1955年	5位	46,735	52.3
1960年	7位	31,959	34.2
1965年	7位	22,366	22.8
1970年	8位	15,899	15.4
1975年	10位	10,567	9.5
1980年	13位	6,439	5.5
1985年	16位	4,692	3.9
1990年	17位	3,664	3.0
1991年	20位	3,325	2.7
1992年	21位	3,347	2.7
1993年	21位	3,249	2.6
1994年	23位	3,094	2.5
1995年	23位	3,178	2.6
1996年	22位	2,858	2.3
1997年	22位	2,742	2.2
1998年	22位	2,795	2.2
1999年	21位	2,935	2.3
2000年	24位	2,656	2.1
2001年	25位	2,491	2.0
2002年	25位	2,317	1.8
2003年	25位	2,337	1.9
2004年	25位	2,330	1.8
2005年	25位	2,296	1.8
2006年	26位	2,269	1.8
2007年	27位	2,194	1.7
2008年	25位	2,220	1.8
2009年	24位	2,159	1.7
2010年	26位	2,129	1.7
2011年	25位	2,166	1.7
2012年	26位	2,110	1.7
2013年	26位	2,087	1.7
2014年	26位	2,100	1.7
2015年	29位	1,956	1.6
2016年	28位	1,892	1.5
2017年	30位	2,306	1.9
2018年	30位	2,204	1.8
2019年	31位	2,087	1.7
2020年	-	1,909	1.5
2021年	-	1,845	1.5
2022年	-	1,664	1.4

(注) 死亡率は人口10万対
 人口動態統計より。2022年は概数。
 2017年より死因統計に使用する分類を変更したことに伴い、死因を選択する統計上のルールも変更された。死因別死亡数の一部にみられる数値の大幅な変化には、これらの影響による変動が含まれている(人口動態統計月報年計(概数)の概況より)。
 2020年以降は結核の死因の順位の公表はなかった。

2022年の結核による死亡数は1,664人(概数)で、前年の1,845人に比べ181人減少している。死亡率(人口10万対)は1.4で前年から0.1減少している。

表4-1. 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

区 分	全結核（新分類）				全結核（旧分類）			
	実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比		実数／前年比		罹患率（人口10万対） ／前年比	
1992年					48,956		39.3	
1993年					47,437	△1,519	38.0	△1.3
1994年					44,590	△2,847	35.7	△2.3
1995年					43,078	△1,512	34.3	△1.4
1996年					42,472	△ 606	33.7	△0.6
1997年					42,715	243	33.9	0.2
1998年	41,033		32.4		44,016	1,301	34.8	0.9
1999年	43,818	2,785	34.6	2.2				
2000年	39,384	△4,434	31.0	△3.6				
2001年	35,489	△3,895	27.9	△3.1				
2002年	32,828	△2,661	25.8	△2.1				
2003年	31,638	△1,190	24.8	△1.0				
2004年	29,736	△1,902	23.3	△1.5				
2005年	28,319	△1,417	22.2	△1.1				
2006年	26,384	△1,935	20.6	△1.6				
2007年	25,311	△1,073	19.8	△0.8				
2008年	24,760	△551	19.4	△0.4				
2009年	24,170	△590	19.0	△0.4				
2010年	23,261	△909	18.2	△0.8				
2011年	22,681	△580	17.7	△0.5				
2012年	21,283	△1,398	16.7	△1.0				
2013年	20,495	△788	16.1	△0.6				
2014年	19,615	△880	15.4	△0.7				
2015年	18,280	△1,335	14.4	△1.0				
2016年	17,625	△655	13.9	△0.5				
2017年	16,789	△836	13.3	△0.6				
2018年	15,590	△1,199	12.3	△1.0				
2019年	14,460	△1,130	11.5	△0.8				
2020年	12,739	△1,721	10.1	△1.4				
2021年	11,519	△1,220	9.2	△0.9				
2022年	10,235	△1,284	8.2	△1.0				

2022年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は10,235人で、前年より1,284人(11.1%)減少している。減少率を見ると、2021年の前年からの減少率は9.6%（12,739人→11,519人）の減少であったが、2022年の減少幅は1.5ポイントの拡大となっている。

2022年の結核罹患率（人口10万対）は8.2であり、前年の9.2より1.0（10.9%）減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態が継続している。減少率を見ると、2021年の前年からの減少率は8.9%であることから、減少幅は2.0ポイントの拡大となっている。

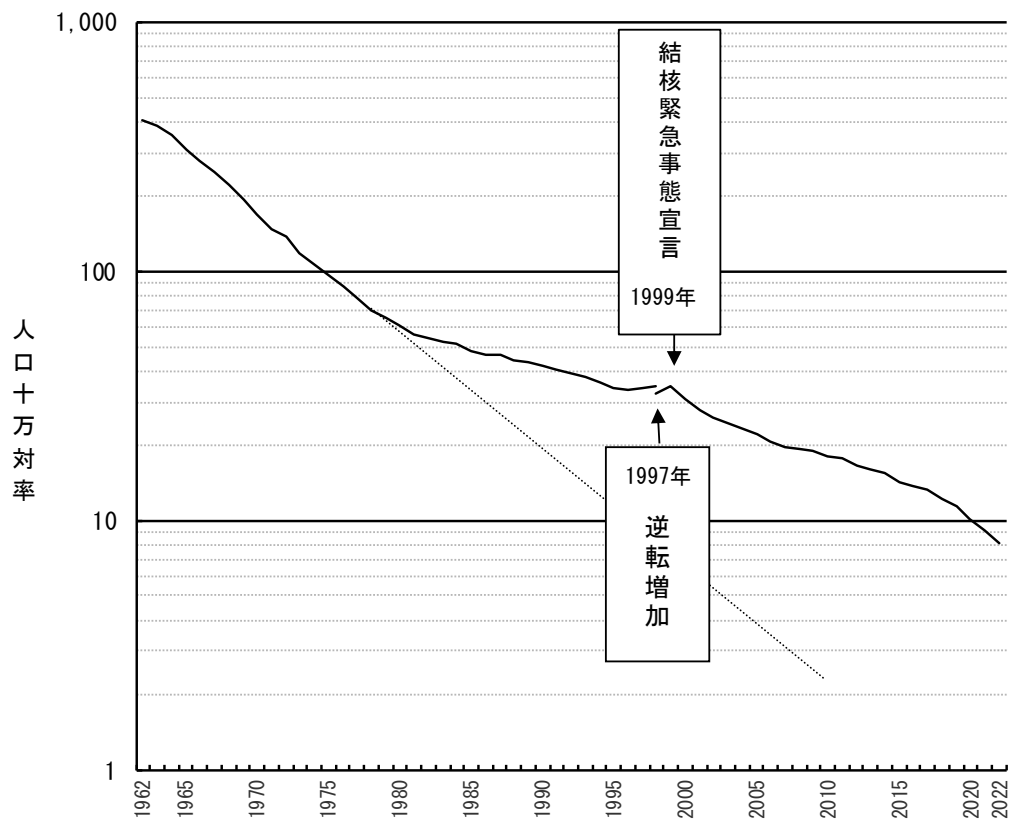
表4-2. 新登録結核患者及び罹患率の年次推移（喀痰塗抹陽性肺結核患者数、再掲）

区分	喀痰塗抹陽性肺結核(新分類) (再掲)		喀痰塗抹陽性 患者の割合 (%/全結核)	塗抹陽性肺結核(旧分類) (再掲)		塗抹陽性患者 の割合 (%/全結核)		
	実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比		実数/前年比	罹患率 (人口10万対)/前年比			
1992年				15,540	12.5	31.7		
1993年				15,210	△330	12.2	△0.3	32.1
1994年				14,777	△433	11.8	△0.4	33.1
1995年				15,103	326	12.0	0.2	35.1
1996年				15,035	△68	11.9	△0.1	35.4
1997年				15,967	932	12.7	0.8	37.4
1998年	13,405	10.6	32.7	16,294	327	12.9	0.2	37.0
1999年	14,482	1,077	11.4	0.8	33.1			
2000年	13,220	△1,262	10.4	△1.0	33.6			
2001年	12,656	△564	9.9	△0.5	35.7			
2002年	11,933	△723	9.4	△0.5	36.4			
2003年	11,857	△76	9.3	△0.1	37.5			
2004年	11,445	△412	9.0	△0.3	38.5			
2005年	11,318	△127	8.9	△0.1	40.0			
2006年	10,492	△826	8.2	△0.7	39.8			
2007年	10,204	△288	8.0	△0.2	40.3			
2008年	9,809	△395	7.7	△0.3	39.6			
2009年	9,675	△134	7.6	△0.1	40.0			
2010年	9,019	△656	7.0	△0.6	38.8			
2011年	8,654	△365	6.8	△0.2	38.2			
2012年	8,237	△417	6.5	△0.3	38.7			
2013年	8,119	△118	6.4	△0.1	39.6			
2014年	7,651	△468	6.0	△0.4	39.0			
2015年	7,131	△520	5.6	△0.4	39.0			
2016年	6,642	△489	5.2	△0.4	37.7			
2017年	6,359	△283	5.0	△0.2	37.9			
2018年	5,781	△578	4.6	△0.4	37.1			
2019年	5,231	△550	4.1	△0.5	36.2			
2020年	4,615	△616	3.7	△0.4	36.2			
2021年	4,127	△488	3.3	△0.4	35.8			
2022年	3,703	△424	3.0	△0.3	36.2			

喀痰塗抹陽性肺結核の患者数は3,703人で、前年より424人（10.3%）減少している。

喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率（人口10万対）は3.0であり、前年の3.3より0.3減少している。喀痰塗抹陽性肺結核の患者が全体に占める割合は36.2%で、前年から0.4ポイントの増加となっている。

図1. 結核罹患率の推移(全結核)



2022年の結核罹患率（人口10万対）は8.2であり、前年の9.2より1.0(10.9%)減少し、結核低まん延の水準である罹患率10.0以下の状態が継続している。減少率を見ると、2021年の前年からの減少率は8.9%であることから、減少幅は2.0ポイントの拡大となっている。

表5-1. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	15,590 (100.0)	14,460 (100.0)	12,739 (100.0)	11,519 (100.0)	10,235 (100.0)
0～4歳	24 (0.2)	18 (0.1)	27 (0.2)	14 (0.1)	21 (0.2)
5～9歳	6 (0.0)	9 (0.1)	9 (0.1)	5 (0.0)	8 (0.1)
10～14歳	21 (0.1)	11 (0.1)	16 (0.1)	10 (0.1)	6 (0.1)
15～19歳	158 (1.0)	142 (1.0)	75 (0.6)	98 (0.9)	71 (0.7)
20～29歳	1,273 (8.2)	1,164 (8.0)	1,027 (8.1)	930 (8.1)	777 (7.6)
30～39歳	885 (5.7)	767 (5.3)	686 (5.4)	597 (5.2)	503 (4.9)
40～49歳	1,034 (6.6)	985 (6.8)	741 (5.8)	640 (5.6)	546 (5.3)
50～59歳	1,150 (7.4)	1,054 (7.3)	924 (7.3)	841 (7.3)	733 (7.2)
60～69歳	1,704 (10.9)	1,472 (10.2)	1,262 (9.9)	1,070 (9.3)	921 (9.0)
70～79歳	2,995 (19.2)	2,810 (19.4)	2,547 (20.0)	2,241 (19.5)	2,066 (20.2)
80～89歳	4,534 (29.1)	4,061 (28.1)	3,686 (28.9)	3,440 (29.9)	3,159 (30.9)
90歳以上	1,806 (11.6)	1,967 (13.6)	1,739 (13.7)	1,633 (14.2)	1,424 (13.9)

年齢階級別の新登録結核患者数では、0～14歳の小児結核は35人で前年から6人(20.7%)の増加となっている。0～4歳と5～9歳以外の年齢階級では新登録結核患者数は減少となっている。減少数が最も大きかったのは80～89歳で281人(8.2%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が30.9%と最も大きくなっている。90歳以上は209人の減少で、これまでの増加傾向にあった全体に占める割合も13.9%と0.3ポイントの減少となっている。

表5-2. 年次別・年齢階級別 喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数

() 内は構成比

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	5,781 (100.0)	5,231 (100.0)	4,615 (100.0)	4,127 (100.0)	3,703 (100.0)
0～4歳	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5～9歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)
10～14歳	3 (0.1)	0 (0.0)	3 (0.1)	2 (0.0)	1 (0.0)
15～19歳	40 (0.7)	38 (0.7)	20 (0.4)	35 (0.8)	17 (0.5)
20～29歳	296 (5.1)	296 (5.7)	255 (5.5)	202 (4.9)	198 (5.3)
30～39歳	259 (4.5)	199 (3.8)	194 (4.2)	169 (4.1)	136 (3.7)
40～49歳	321 (5.6)	308 (5.9)	226 (4.9)	182 (4.4)	169 (4.6)
50～59歳	417 (7.2)	364 (7.0)	307 (6.7)	291 (7.1)	264 (7.1)
60～69歳	693 (12.0)	525 (10.0)	489 (10.6)	379 (9.2)	317 (8.6)
70～79歳	1,101 (19.0)	1,035 (19.8)	925 (20.0)	794 (19.2)	756 (20.4)
80～89歳	1,857 (32.1)	1,595 (30.5)	1,454 (31.5)	1,374 (33.3)	1,241 (33.5)
90歳以上	793 (13.7)	871 (16.7)	742 (16.1)	699 (16.9)	603 (16.3)

年齢階級別の喀痰塗抹陽性肺結核新登録患者数では、0～14歳の小児結核の発生は2人となっている。1人の増加であった5～9歳を除いた他の年齢階級では患者数は減少となっている。減少数が最も大きかった年齢階級は80～89歳で133人(9.7%)の減少となっている。各年齢階級別で全体に占める割合は、80～89歳が33.5%と最も大きくなっている。

表5-3. 年次別・年齢階級別 新登録小児結核中の粟粒結核および結核性髄膜炎患者数

区 分	2018年			2019年			2020年			2021年			2022年		
	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発	粟粒結核	結核性髄膜炎	(再掲) 粟粒結核、結核性髄膜炎併発
合計	1	1	0	3	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
0～4歳	1	1	0	2	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
5～9歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

合計は小児結核(0～14歳)の合計、粟粒結核と結核性髄膜炎の重複あり

2021年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2020年患者の詳細

粟粒結核、結核性髄膜炎併発0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

2019年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴なし。

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

粟粒結核 12歳、外国出生1名、BCG接種歴不明。

2018年患者の詳細

粟粒結核 0歳、日本出生1名、BCG接種歴不明。

結核性髄膜炎 0歳、日本出生1名、BCG接種歴あり。

小児結核患者（14歳以下）のうち、重症結核例である粟粒結核及び結核性髄膜炎患者の2022年での発生はなかった。

表5-4. 年次別・年齢階級別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	7,414 (100.0)	7,684 (100.0)	5,575 (100.0)	5,140 (100.0)	5,025 (100.0)
0～4歳	425 (5.7)	411 (5.3)	365 (6.5)	281 (5.5)	279 (5.6)
5～9歳	103 (1.4)	62 (0.8)	58 (1.0)	35 (0.7)	42 (0.8)
10～14歳	69 (0.9)	53 (0.7)	36 (0.6)	28 (0.5)	33 (0.7)
15～19歳	164 (2.2)	124 (1.6)	73 (1.3)	51 (1.0)	62 (1.2)
20～29歳	958 (12.9)	867 (11.3)	514 (9.2)	431 (8.4)	462 (9.2)
30～39歳	801 (10.8)	750 (9.8)	454 (8.1)	414 (8.1)	350 (7.0)
40～49歳	951 (12.8)	1,025 (13.3)	641 (11.5)	547 (10.6)	520 (10.3)
50～59歳	1,021 (13.8)	1,145 (14.9)	760 (13.6)	703 (13.7)	668 (13.3)
60～69歳	1,154 (15.6)	1,147 (14.9)	906 (16.3)	747 (14.5)	666 (13.3)
70～79歳	1,129 (15.2)	1,293 (16.8)	1,033 (18.5)	1,112 (21.6)	1,093 (21.8)
80歳以上	639 (8.6)	807 (10.5)	735 (13.2)	791 (15.4)	850 (16.9)

2022年に新たに登録された潜在性結核感染症の者の数は5,025人で、前年より115人(2.2%)の減少となっている。0～4歳は279人で、全体の5.6%となっている。最も登録者が多かった年齢階級は70～79歳の1,093人で全体の21.8%となっており、60歳以上が52.0%と半数以上を占めている。

表5-5. 年次別・年齢階級別 新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症（LTBI）
新登録者数の比

(比: 潜在性結核感染症新登録者数/新登録結核患者数)

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5
0～4歳	17.7	22.8	13.5	20.1	13.3
5～9歳	17.2	6.9	6.4	7.0	5.3
10～14歳	3.3	4.8	2.3	2.8	5.5
15～19歳	1.0	0.9	1.0	0.5	0.9
20～29歳	0.8	0.7	0.5	0.5	0.6
30～39歳	0.9	1.0	0.7	0.7	0.7
40～49歳	0.9	1.0	0.9	0.9	1.0
50～59歳	0.9	1.1	0.8	0.8	0.9
60～69歳	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7
70～79歳	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5
80歳以上	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2

新登録結核患者数に対する潜在性結核感染症新登録者数の比は、14歳以下の年齢階級では5.3以上となっており、潜在性結核感染症新登録患者数の方が多くなっている。特に0～4歳は13.3となっている。また、15歳以上の年齢階級は全て1.0以下となっており潜在性結核感染症新登録患者数の方が少なくなっている。

表5-6. 年次別・職業別 潜在性結核感染症（LTBI）新登録者数

（ ）内は構成比

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2022/2021年
総 数	7,414 (100.0)	7,684 (100.0)	5,575 (100.0)	5,140 (100.0)	5,025 (100.0)	1.0
看護師・保健師	786 (10.6)	749 (9.7)	480 (8.6)	412 (8.0)	343 (6.8)	0.8
医師	141 (1.9)	156 (2.0)	98 (1.8)	73 (1.4)	79 (1.6)	1.1
その他医療職・介護職	699 (9.4)	776 (10.1)	502 (9.0)	522 (10.2)	435 (8.7)	0.8
接客業等	175 (2.4)	180 (2.3)	142 (2.5)	102 (2.0)	111 (2.2)	1.1
教員・保育士	87 (1.2)	79 (1.0)	53 (1.0)	42 (0.8)	41 (0.8)	1.0
上記以外の常用勤労者	1,405 (19.0)	1,509 (19.6)	944 (16.9)	817 (15.9)	737 (14.7)	0.9
上記以外の臨時雇、日雇	267 (3.6)	255 (3.3)	143 (2.6)	155 (3.0)	173 (3.4)	1.1
上記以外の自営業・自由業	235 (3.2)	244 (3.2)	181 (3.2)	198 (3.9)	159 (3.2)	0.8
家事従事者	108 (1.5)	118 (1.5)	67 (1.2)	48 (0.9)	34 (0.7)	0.7
無職・その他	2,265 (30.6)	2,551 (33.2)	2,149 (38.5)	2,141 (41.7)	2,185 (43.5)	1.0
乳幼児	319 (4.3)	324 (4.2)	299 (5.4)	234 (4.6)	226 (4.5)	1.0
保育園・幼稚園児・小中学生	248 (3.3)	180 (2.3)	136 (2.4)	81 (1.6)	104 (2.1)	1.3
高校生以上の生徒学生等	535 (7.2)	421 (5.5)	246 (4.4)	151 (2.9)	233 (4.6)	1.5
不明	144 (1.9)	142 (1.8)	135 (2.4)	164 (3.2)	165 (3.3)	1.0

職業別では、2022年の潜在性結核感染症新登録者における医療職（看護師・保健師、医師、その他の医療職）は857人で、割合は17.1%となっており、前年の19.6%から2.5ポイントの減少となっている。一方、無職・その他の割合が、前年の41.7%から43.5%に増加となっている。乳幼児、保育園・幼稚園児、小中学生、高校生以上の生徒学生の割合は11.2%で、前年の9.1%から2.1ポイントの増加となっている。

表5-7. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合

区分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総数	1,667 (10.7)	1,541 (10.7)	1,411 (11.1)	1,313 (11.4)	1,214 (11.9)
0～4歳	3 (12.5)	2 (11.1)	2 (7.4)	1 (7.1)	6 (28.6)
5～9歳	1 (16.7)	5 (55.6)	4 (44.4)	2 (40.0)	1 (12.5)
10～14歳	8 (38.1)	3 (27.3)	3 (18.8)	3 (30.0)	1 (16.7)
15～19歳	87 (55.1)	78 (54.9)	40 (53.3)	40 (40.8)	41 (57.7)
20～29歳	896 (70.4)	851 (73.1)	732 (71.3)	675 (72.6)	602 (77.5)
30～39歳	344 (38.9)	283 (36.9)	330 (48.1)	276 (46.2)	273 (54.3)
40～49歳	151 (14.6)	147 (14.9)	141 (19.0)	135 (21.1)	125 (22.9)
50～59歳	91 (7.9)	76 (7.2)	83 (9.0)	94 (11.2)	84 (11.5)
60～69歳	35 (2.1)	41 (2.8)	44 (3.5)	43 (4.0)	33 (3.6)
70～79歳	23 (0.8)	27 (1.0)	19 (0.7)	16 (0.7)	19 (0.9)
80歳以上	28 (0.4)	28 (0.5)	13 (0.0)	28 (0.6)	29 (0.6)

外国生まれ新登録結核患者数は、前年から99人減少して1,214人となっている。しかし、新登録結核患者における外国生まれの者の割合は11.9%と前年の11.4%から0.5ポイントの増加となっており、増加傾向が続いている。20～29歳では外国生まれ新登録結核患者数は前年に比べて73人の減少で602人となっているが、同年齢階級での割合は77.5%と前年から4.9ポイントの増加となっている。30～39歳では外国生まれ新登録結核患者数は3人減少して273人となったが、割合は前年の46.2%から54.3%と8.1ポイント増加し、同年齢階級で半数以上を占めている。

表5-8. 年次別・年齢階級別 外国生まれ新登録結核患者数（入国5年以内、再掲）
 （ ）内は全外国生まれ新登録患者に占める割合）

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	882 (52.9)	836 (54.3)	669 (47.4)	568 (43.3)	513 (42.3)
0～4歳	3 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	4 (66.7)
5～9歳	1 (100.0)	5 (100.0)	2 (50.0)	1 (50.0)	1 (100.0)
10～14歳	4 (50.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)
15～19歳	59 (67.8)	62 (79.5)	23 (57.5)	27 (67.5)	29 (70.7)
20～29歳	617 (68.9)	588 (69.1)	458 (62.6)	384 (56.9)	357 (59.3)
30～39歳	134 (39.0)	127 (44.9)	135 (40.9)	117 (42.4)	87 (31.9)
40～49歳	35 (23.2)	32 (21.8)	29 (20.6)	23 (17.0)	23 (18.4)
50～59歳	9 (9.9)	7 (9.2)	10 (12.0)	7 (7.4)	8 (9.5)
60～69歳	10 (28.6)	8 (19.5)	11 (25.0)	5 (11.6)	1 (3.0)
70～79歳	6 (26.1)	5 (18.5)	1 (5.3)	0 (0.0)	1 (5.3)
80歳以上	4 (14.3)	1 (3.6)	0 (0.0)	1 (3.6)	2 (6.9)

外国生まれ新登録結核患者のうち、入国5年以内の者は、前年の568人から55人減少し513人となっている。最も患者数が多い20～29歳の年齢階級では、前年から27人減少して357人となっている。

表5-9. 年次別・年齢階級別 日本生まれ新登録結核患者数

() 内は構成比

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	13,570 (100.0)	12,567 (100.0)	11,080 (100.0)	9,809 (100.0)	8,673 (100.0)
0～4歳	21 (0.2)	16 (0.1)	25 (0.2)	13 (0.1)	15 (0.2)
5～9歳	5 (0.0)	4 (0.0)	5 (0.0)	3 (0.0)	7 (0.1)
10～14歳	13 (0.1)	8 (0.1)	13 (0.1)	7 (0.1)	5 (0.1)
15～19歳	70 (0.5)	62 (0.5)	35 (0.3)	57 (0.6)	28 (0.3)
20～29歳	367 (2.7)	307 (2.4)	287 (2.6)	243 (2.5)	161 (1.9)
30～39歳	527 (3.9)	476 (3.8)	351 (3.2)	304 (3.1)	218 (2.5)
40～49歳	864 (6.4)	825 (6.6)	588 (5.3)	490 (5.0)	404 (4.7)
50～59歳	1,032 (7.6)	952 (7.6)	827 (7.5)	721 (7.4)	631 (7.3)
60～69歳	1,629 (12.0)	1,388 (11.0)	1,197 (10.8)	990 (10.1)	862 (9.9)
70～79歳	2,907 (21.4)	2,720 (21.6)	2,478 (22.4)	2,141 (21.8)	1,970 (22.7)
80～89歳	4,402 (32.4)	3,929 (31.3)	3,578 (32.3)	3,274 (33.4)	3,016 (34.8)
90歳以上	1,733 (12.8)	1,880 (15.0)	1,696 (15.3)	1,566 (16.0)	1,356 (15.6)

(注) 出生国については日本生れと外国生まれの他に出生国不明がある。

日本生まれ新登録結核患者数は、前年の9,809人から1,136人減少して8,673人となっている。年齢階級別では80～89歳の患者数が最も多く3,016人で日本生まれ新登録結核患者の34.8%となっている。10歳以上の年齢階級では患者数は減少となっており、減少数が最も大きかったのは80～89歳で258人の減少となっている。90歳以上も2020年以降は減少となり、2022年は210人減少して1,356人となっている。

表6-1. 年次別・年齢階級別 結核罹患率

(人口10万対)

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	12.3	11.5	10.1	9.2	8.2
0～4歳	0.5	0.4	0.6	0.3	0.5
5～9歳	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2
10～14歳	0.4	0.2	0.3	0.2	0.1
15～19歳	2.7	2.4	1.3	1.8	1.3
20～29歳	10.1	9.2	8.1	7.4	6.1
30～39歳	6.0	5.4	4.8	4.3	3.7
40～49歳	5.5	5.3	4.0	3.6	3.1
50～59歳	7.2	6.5	5.5	4.9	4.2
60～69歳	10.0	9.1	8.0	7.0	6.1
70～79歳	19.7	17.6	15.7	13.7	12.6
80～89歳	51.2	45.4	40.3	36.5	32.6
90歳以上	82.8	85.2	72.7	64.6	54.0

年齢階級別の結核罹患率は、70歳以上の高齢層で高くなっている。60～69歳の罹患率は6.1で全年齢の罹患率より低いが、70～79歳で12.6、80～89歳で32.6、90歳以上では54.0となっている。全体としては年齢階級別罹患率の年次推移は減少傾向となっている。

表6-2. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（喀痰塗抹陽性肺結核患者、再掲）

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	4.6	4.1	3.7	3.3	3.0
0～4歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5～9歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10～14歳	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
15～19歳	0.7	0.7	0.4	0.6	0.3
20～29歳	2.4	2.3	2.0	1.6	1.6
30～39歳	1.8	1.4	1.4	1.2	1.0
40～49歳	1.7	1.7	1.2	1.0	1.0
50～59歳	2.6	2.2	1.8	1.7	1.5
60～69歳	4.1	3.2	3.1	2.5	2.1
70～79歳	7.3	6.5	5.7	4.8	4.6
80～89歳	21.0	17.8	15.9	14.6	12.8
90歳以上	36.3	37.7	31.0	27.7	22.9

菌喀痰塗抹陽性肺結核の罹患率も、同様に、高齢層ほど高くなっている。70歳代までは10未満だが、80～89歳で12.8、90歳以上では22.9となっている。

表6-3. 年次別・年齢階級別 結核罹患率（日本生れ新登録結核患者、再掲）

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総 数	10.9	10.2	9.0	8.0	7.1
0～4歳	0.4	0.3	0.6	0.3	0.4
5～9歳	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
10～14歳	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1
15～19歳	1.2	1.1	0.6	1.0	0.5
20～29歳	3.1	2.6	2.4	2.1	1.4
30～39歳	3.7	3.4	2.6	2.3	1.7
40～49歳	4.7	4.5	3.3	2.8	2.4
50～59歳	6.5	5.9	5.0	4.3	3.7
60～69歳	9.7	8.6	7.7	6.6	5.8
70～79歳	19.3	17.2	15.3	13.1	12.1
80～89歳	49.8	44.1	39.3	34.8	31.2
90歳以上	79.6	81.5	71.1	62.1	51.5

新登録結核患者のうち、日本生まれの患者の結核罹患率は、前年から0.9減少の7.1となっている。外国生まれ結核患者の影響が除かれた20～29歳の罹患率は1.4、30～39歳で1.7となっており、全体の罹患率からは低くなっている。

表7-1. 新登録結核患者数 都道府県別・年次推移

都道府県名	新登録結核患者数(人)					備考	(再掲)菌培養塗抹陽性肺結核患者数(人)				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
全国	15,590	14,460	12,739	11,519	10,235		5,781	5,231	4,615	4,127	3,703
北海道	451	389	380	335	281		154	129	153	126	101
青森	127	112	120	105	90		50	53	63	46	33
岩手	105	83	74	61	60		47	30	30	31	22
宮城	166	168	135	152	127		63	61	57	55	61
秋田	74	66	63	46	52	↑	31	27	26	26	18
山形	65	83	70	60	48		22	36	30	25	19
福島	183	128	122	101	82		68	55	40	35	34
茨城	304	299	287	221	248	↑	125	115	87	69	78
栃木	172	188	179	151	112		58	89	55	60	50
群馬	171	156	152	123	112		47	48	45	31	40
埼玉	856	786	675	616	557		314	288	239	214	233
千葉	755	697	611	553	494		270	246	222	184	153
東京	1,970	1,810	1,589	1,429	1,193		744	624	597	545	453
神奈川	1,024	987	808	748	701		374	348	303	257	225
新潟	178	190	147	144	105		64	50	37	59	30
富山	107	101	71	84	65		32	27	26	26	22
石川	110	100	99	97	79		32	37	30	39	31
福井	76	69	63	51	42		30	18	19	13	9
山梨	77	77	48	35	51	↑	20	38	12	10	15
長野	186	156	138	104	105	↑	82	66	52	31	41
岐阜	279	290	265	214	196		107	102	82	70	75
静岡	393	357	348	291	241		142	124	114	100	87
愛知	1,126	1,024	924	880	724		399	339	308	283	246
三重	198	167	175	148	139		79	67	54	58	54
滋賀	150	149	122	117	116		49	47	44	28	27
京都	363	354	292	271	239		136	130	112	94	88
大阪	1,805	1,619	1,400	1,171	1,118		715	660	550	473	454
兵庫	827	765	641	586	530		324	285	246	222	187
奈良	156	186	133	121	122	↑	63	77	51	51	53
和歌山	132	117	110	89	94	↑	52	50	55	42	32
鳥取	51	43	34	38	40	↑	19	13	11	14	13
島根	78	54	66	54	67	↑	25	20	26	18	27
岡山	187	186	153	183	148		65	67	50	60	59
広島	290	284	254	239	195		115	107	103	91	77
山口	160	154	141	119	116		52	41	40	29	45
徳島	106	96	97	92	75		38	39	35	34	20
香川	133	99	95	83	80		35	32	22	26	34
愛媛	135	112	122	110	98		46	41	54	48	46
高知	74	77	49	48	54	↑	25	27	25	19	22
福岡	594	614	512	535	437		214	196	163	189	141
佐賀	80	108	87	72	59		37	47	36	28	15
長崎	222	174	163	175	137		74	53	47	49	39
熊本	201	175	170	126	146	↑	81	61	58	39	46
大分	169	151	107	117	119	↑	81	69	50	49	47
宮崎	97	101	96	88	84		46	43	41	25	30
鹿児島	236	183	166	161	133		78	59	53	56	38
沖縄	191	176	186	175	124		57	50	62	50	33
指定都市(再掲)											
札幌	155	135	134	111	92		44	44	46	49	27
仙台	75	76	66	86	65		28	31	25	28	36
さいたま	162	143	109	107	96		59	47	37	36	42
千葉	121	109	93	94	95	↑	47	44	43	35	27
横浜	441	412	357	335	288		151	148	126	119	102
川崎	196	184	153	138	127		66	59	58	46	32
相模原	60	57	53	47	48	↑	26	23	23	23	20
新潟	72	76	52	45	43		24	20	17	22	14
静岡	83	72	74	63	54		39	25	31	19	17
浜松	86	86	96	73	60		27	19	32	19	19
名古屋	437	422	378	336	283		165	159	140	119	104
京都	227	221	173	164	144		91	85	68	56	59
大阪	798	701	578	512	480		333	304	234	203	181
堺	156	154	134	119	119		67	75	58	50	54
神戸	258	262	213	201	148		73	80	81	77	42
岡山	73	72	59	81	45		21	24	16	21	22
広島	108	99	94	86	91	↑	42	36	38	37	38
北九州	136	137	123	142	103		44	31	31	45	29
福岡	165	205	149	138	143	↑	65	72	50	51	47
熊本	76	73	64	46	55	↑	32	30	23	14	19
東京都特別区	1,525	1,381	1,257	1,071	926		573	478	470	408	352

(注)備考欄において「↑」は2022年の新登録数が2021年を上回ったものを表す。

新登録結核患者数は、47都道府県のうち11の県で増加している。新登録結核患者数が最も多いのは東京都の1,193人で、次いで大阪府の1,118人となっている。

表7-2. 結核罹患率 都道府県別・年次推移

都道府県名	罹患率（人口10万対）					備考	（再掲）菌陰塗抹陽性肺結核罹患率（人口10万対）				
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
全国	12.3	11.5	10.1	9.2	8.2		4.6	4.1	3.7	3.3	3.0
北海道	8.5	7.4	7.3	6.5	5.5		2.9	2.5	2.9	2.4	2.0
青森	10.1	9.0	9.7	8.6	7.5		4.0	4.3	5.1	3.8	2.7
岩手	8.5	6.8	6.1	5.1	5.1	○4	3.8	2.4	2.5	2.6	1.9
宮城	7.2	7.3	5.9	6.6	5.6		2.7	2.6	2.5	2.4	2.7
秋田	7.5	6.8	6.6	4.9	5.6	↑	3.2	2.8	2.7	2.8	1.9
山形	6.0	7.7	6.6	5.7	4.6	○2	2.0	3.3	2.8	2.4	1.8
福島	9.8	6.9	6.7	5.6	4.6	○1	3.6	3.0	2.2	1.9	1.9
茨城	10.6	10.5	10.0	7.7	8.7	↑	4.3	4.0	3.0	2.4	2.7
栃木	8.8	9.7	9.3	7.9	5.9		3.0	4.6	2.8	3.1	2.6
群馬	8.8	8.0	7.8	6.4	5.9		2.4	2.5	2.3	1.6	2.1
埼玉	11.7	10.7	9.2	8.4	7.6		4.3	3.9	3.3	2.9	3.2
千葉	12.1	11.1	9.7	8.8	7.9		4.3	3.9	3.5	2.9	2.4
東京	14.3	13.0	11.3	10.2	8.5		5.4	4.5	4.2	3.9	3.2
神奈川	11.2	10.7	8.7	8.1	7.6		4.1	3.8	3.3	2.8	2.4
新潟	7.9	8.5	6.7	6.6	4.9	○3	2.8	2.2	1.7	2.7	1.4
富山	10.2	9.7	6.9	8.2	6.4		3.0	2.6	2.5	2.5	2.2
石川	9.6	8.8	8.7	8.6	7.1		2.8	3.3	2.6	3.5	2.8
福井	9.8	9.0	8.2	6.7	5.6		3.9	2.3	2.5	1.7	1.2
山梨	9.4	9.5	5.9	4.3	6.4	↑	2.4	4.7	1.5	1.2	1.9
長野	9.0	7.6	6.7	5.1	5.2	↑○5	4.0	3.2	2.5	1.5	2.0
岐阜	14.0	14.6	13.4	10.9	10.1		5.4	5.1	4.1	3.6	3.9
静岡	10.7	9.8	9.6	8.1	6.7		3.9	3.4	3.1	2.8	2.4
愛知	14.9	13.6	12.3	11.7	9.7		5.3	4.5	4.1	3.8	3.3
三重	11.1	9.4	9.9	8.4	8.0		4.4	3.8	3.1	3.3	3.1
滋賀	10.6	10.5	8.6	8.3	8.2		3.5	3.3	3.1	2.0	1.9
京都	14.0	13.7	11.3	10.6	9.4		5.2	5.0	4.3	3.7	3.5
大阪	20.5	18.4	15.8	13.3	12.7	△1	8.1	7.5	6.2	5.4	5.2
兵庫	15.1	14.0	11.7	10.8	9.8		5.9	5.2	4.5	4.1	3.5
奈良	11.7	14.0	10.0	9.2	9.3	↑	4.7	5.8	3.9	3.9	4.1
和歌山	14.1	12.6	11.9	9.7	10.4	↑△5	5.6	5.4	6.0	4.6	3.5
鳥取	9.1	7.7	6.1	6.9	7.4	↑	3.4	2.3	2.0	2.6	2.4
島根	11.5	8.0	9.8	8.1	10.2	↑	3.7	3.0	3.9	2.7	4.1
岡山	9.9	9.8	8.1	9.8	7.9		3.4	3.5	2.6	3.2	3.2
広島	10.3	10.1	9.1	8.6	7.1		4.1	3.8	3.7	3.3	2.8
山口	11.7	11.3	10.5	9.0	8.8		3.8	3.0	3.0	2.2	3.4
徳島	14.4	13.2	13.5	12.9	10.7	△4	5.2	5.4	4.9	4.8	2.8
香川	13.8	10.4	10.0	8.8	8.6		3.6	3.3	2.3	2.8	3.6
愛媛	10.0	8.4	9.1	8.3	7.5		3.4	3.1	4.0	3.6	3.5
高知	10.5	11.0	7.1	7.0	8.0	↑	3.5	3.9	3.6	2.8	3.3
福岡	11.6	12.0	10.0	10.4	8.5		4.2	3.8	3.2	3.7	2.8
佐賀	9.8	13.3	10.7	8.9	7.4		4.5	5.8	4.4	3.5	1.9
長崎	16.6	13.1	12.4	13.5	10.7	△3	5.5	4.0	3.6	3.8	3.0
熊本	11.4	10.0	9.8	7.3	8.5	↑	4.6	3.5	3.3	2.3	2.7
大分	14.8	13.3	9.5	10.5	10.8	↑△2	7.1	6.1	4.4	4.4	4.2
宮崎	9.0	9.4	9.0	8.3	8.0		4.3	4.0	3.8	2.4	2.9
鹿児島	14.6	11.4	10.5	10.2	8.5		4.8	3.7	3.3	3.6	2.4
沖縄	13.2	12.1	12.7	11.9	8.4		3.9	3.4	4.2	3.4	2.2
指定都市（再掲）											
札幌	7.9	6.9	6.8	5.6	4.7		2.2	2.2	2.3	2.5	1.4
仙台	6.9	7.0	6.0	7.8	5.9		2.6	2.8	2.3	2.6	3.3
さいたま	12.5	10.9	8.2	8.0	7.2		4.5	3.6	2.8	2.7	3.1
千葉	12.4	11.1	9.5	9.6	9.7	↑	4.8	4.5	4.4	3.6	2.8
横浜	11.8	11.0	9.5	8.9	7.6		4.0	3.9	3.3	3.2	2.7
川崎	12.9	12.0	9.9	9.0	8.2		4.4	3.9	3.8	3.0	2.1
相模原	8.3	7.9	7.3	6.5	6.6	↑	3.6	3.2	3.2	3.2	2.8
新潟	9.0	9.5	6.6	5.7	5.5		3.0	2.5	2.2	2.8	1.8
静岡	11.8	10.3	10.7	9.1	7.9		5.5	3.6	4.5	2.8	2.5
浜松	10.8	10.9	12.1	9.2	7.6		3.4	2.4	4.0	2.4	2.4
名古屋	18.8	18.1	16.2	14.4	12.2		7.1	6.8	6.0	5.1	4.5
京都	15.5	15.1	11.8	11.3	9.9		6.2	5.8	4.6	3.9	4.1
大阪	29.3	25.6	21.0	18.6	17.4		12.2	11.1	8.5	7.4	6.6
堺	18.6	18.6	16.2	14.5	14.6	↑	8.0	9.1	7.0	6.1	6.6
神戸	16.9	17.2	14.0	13.2	9.8		4.8	5.3	5.3	5.1	2.8
岡山	10.3	10.2	8.1	11.2	6.3		3.0	3.4	2.2	2.9	3.1
広島	9.0	8.3	7.8	7.2	7.6	↑	3.5	3.0	3.2	3.1	3.2
北九州	14.4	14.6	13.1	15.2	11.1		4.7	3.3	3.3	4.8	3.1
福岡	10.4	12.9	9.2	8.5	8.8	↑	4.1	4.5	3.1	3.1	2.9
熊本	10.3	9.9	8.7	6.2	7.5	↑	4.3	4.1	3.1	1.9	2.6
東京都特別区	16.0	14.3	12.9	11.1	9.5		6.0	5.0	4.8	4.2	3.6

注1) 備考欄において「↑」は2022年の罹患率が2021年を上回ったもの、「○1」は罹患率下位1位を、「△1」は罹患率上位1位を表す。

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定

都道府県別の結核罹患率は、47都道府県のうち11の県で前年から増加している。一方、結核低まん延の水準である罹患率が10.0以下の都道府県の数、40に達している。最も低い福島県の罹患率は4.6となっている。罹患率が最も高い大阪府は12.7で福島県の2.8倍となっている。

表 8. 年末時結核登録者数及び有病率の年次推移

区 分	総数／前年比		活 動 性 全 結 核			
			患者数／前年比		有病率(人口10万対) /前年比	
1994年	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
1995年	168,581	△12,889	65,167	△5,614	51.9	△4.7
1996年	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
1997年	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
1998年	107,058		49,205		38.9	
1999年	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
2000年	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
2001年	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
2002年	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
2003年	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
2004年	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
2005年	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
2006年	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6
2007年	63,556	△2,139	20,637	△1,339	16.2	△1.0
2008年	62,244	△1,312	20,021	△616	15.7	△0.5
2009年	59,573	△2,671	18,915	△1,106	14.8	△0.9
2010年	55,573	△4,000	17,927	△988	14.0	△0.8
2011年	55,196	△377	17,264	△663	13.5	△0.5
2012年	52,173	△3,023	14,858	△2,406	11.7	△1.8
2013年	49,814	△2,359	13,957	△901	11.0	△0.7
2014年	47,845	△1,969	13,513	△444	10.6	△0.4
2015年	44,888	△2,957	12,534	△979	9.9	△0.7
2016年	42,299	△2,589	11,717	△817	9.2	△0.7
2017年	39,670	△2,629	11,097	△620	8.8	△0.4
2018年	37,134	△2,536	10,448	△649	8.3	△0.5
2019年	34,523	△2,611	9,695	△753	7.7	△0.6
2020年	31,551	△2,972	8,640	△1,055	6.8	△0.9
2021年	27,754	△3,797	7,744	△896	6.2	△0.6
2022年	24,555	△3,199	6,782	△962	5.4	△0.8

1998年以降は新分類

2022年末現在の結核登録者数は24,555人と、前年の27,754人より3,199人減少している。そのうち、活動性全結核の患者数は6,782人と、前年より962人減少している。また、2022年末の結核有病率は、前年の6.2から0.8減少し、5.4となっている。

表9. 年次別 前回治療開始年代別再治療者数（割合）

前回治療開始年	2018年登録者	2019年登録者	2020年登録者	2021年登録者	2022年登録者
総数	732 (100%)	667 (100%)	546 (100%)	460 (100%)	384 (100%)
1940年代以前	36 (4.9)	27 (4.0)	17 (3.1)	15 (3.3)	12 (3.1)
1950年代	79 (10.8)	80 (12.0)	65 (11.9)	58 (12.6)	31 (8.1)
1960年代	57 (7.8)	42 (6.3)	31 (5.7)	20 (4.3)	13 (3.4)
1970年代	19 (2.6)	24 (3.6)	16 (2.9)	16 (3.5)	18 (4.7)
1980年代	14 (1.9)	21 (3.1)	12 (2.2)	8 (1.7)	8 (2.1)
1990年代	32 (4.4)	35 (5.2)	25 (4.6)	20 (4.3)	18 (4.7)
2000年代	89 (12.2)	67 (10.0)	42 (7.7)	44 (9.6)	37 (9.6)
2010年代	406 (55.5)	371 (55.6)	305 (55.9)	195 (42.4)	122 (31.8)
2020年以降			33 (6.0)	84 (18.3)	125 (32.6)
（再掲）2010年以降の再治療者数					
2010年	21 (5.2)	13 (3.5)	7 (2.1)	9 (3.2)	5 (2.0)
2011年	18 (4.4)	12 (3.2)	14 (4.1)	9 (3.2)	4 (1.6)
2012年	24 (5.9)	19 (5.1)	17 (5.0)	8 (2.9)	16 (6.5)
2013年	29 (7.1)	20 (5.4)	9 (2.7)	15 (5.4)	9 (3.6)
2014年	33 (8.1)	20 (5.4)	13 (3.8)	12 (4.3)	5 (2.0)
2015年	57 (14.0)	34 (9.2)	21 (6.2)	14 (5.0)	11 (4.5)
2016年	95 (23.4)	60 (16.2)	32 (9.5)	10 (3.6)	12 (4.9)
2017年	98 (24.1)	82 (22.1)	42 (12.4)	21 (7.5)	17 (6.9)
2018年	31 (7.6)	83 (22.4)	75 (22.2)	34 (12.2)	13 (5.3)
2019年	-	28 (7.5)	75 (22.2)	63 (22.6)	30 (12.1)
2020年		-	33 (9.8)	57 (20.4)	38 (15.4)
2021年			-	27 (9.7)	58 (23.5)
2022年				-	29 (11.7)

（注）前回治療開始年は、登録情報あるいは本人・家族等への問診による。
 対象は 2018～2022年新登録者で治療歴が再治療の患者。前回治療年が今回の登録年に近い者には、「登録中の再登録」による者が多いと推察される。

2022年新登録結核患者のうちの再治療者は、前年の460人から76人減少して384人となっている。このうち、前回治療年が2010年～2019年の者は122人、2020年以降の者は125人となっている。前回治療年が2010年以降の者は再治療者のうち64.3%となっている。

表10-1. 発病から初診までの期間が2か月以上の割合
有症状肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2002年	19.3
2003年	18.8
2004年	18.8
2005年	18.2
2006年	19.4
2007年	18.0
2008年	18.2
2009年	17.9
2010年	18.3
2011年	18.6
2012年	18.7
2013年	18.1
2014年	18.8
2015年	20.0
2016年	19.7
2017年	20.8
2018年	20.6
2019年	20.4
2020年	19.1
2021年	20.8
2022年	19.9

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～初診までの期間が 2か月以上の割合(%)
2002年	34.2
2003年	32.3
2004年	31.6
2005年	31.4
2006年	33.2
2007年	32.1
2008年	32.3
2009年	30.7
2010年	32.6
2011年	32.9
2012年	33.7
2013年	31.5
2014年	38.0
2015年	37.1
2016年	33.3
2017年	35.0
2018年	34.5
2019年	34.4
2020年	27.5
2021年	38.9
2021年	32.4

2022年の新登録肺結核患者のうち有症状の者の中で、受診が遅れた（症状発現から受診までの期間が2か月以上）患者の割合は、前年から0.9ポイント減少して19.9%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、受診が遅れた患者の割合は32.4%で、前年から6.5ポイントの減少となっている。

表10-2. 初診から診断（登録）までの期間が1か月以上の割合

有症状肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2002年	27.2
2003年	26.0
2004年	25.0
2005年	25.7
2006年	24.3
2007年	21.7
2008年	19.9
2009年	20.4
2010年	22.6
2011年	22.7
2012年	22.0
2013年	22.1
2014年	21.6
2015年	21.5
2016年	22.0
2017年	21.7
2018年	22.0
2019年	21.9
2020年	20.9
2021年	23.1
2022年	21.5

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	初診～診断までの期間が 1か月以上の割合(%)
2002年	15.1
2003年	14.6
2004年	14.1
2005年	14.6
2006年	13.9
2007年	13.2
2008年	10.6
2009年	10.9
2010年	13.6
2011年	14.8
2012年	15.0
2013年	13.9
2014年	13.7
2015年	13.6
2016年	16.1
2017年	14.7
2018年	15.7
2019年	15.2
2020年	14.3
2021年	16.5
2022年	13.5

2002年～2006年までは初診から登録までの期間、2007年以降は初診から診断までの期間

診断が遅れた（受診から結核の診断までの期間が1か月以上）患者の割合は、前年から1.6ポイント減少して21.5%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、診断が遅れた患者の割合は13.5%で、前年から3.0ポイントの減少となっている。

表10-3. 発病から診断（登録）までの期間が3か月以上の割合

有症状肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2002年	21.5
2003年	21.0
2004年	20.3
2005年	19.7
2006年	20.7
2007年	18.5
2008年	18.1
2009年	18.2
2010年	19.6
2011年	19.4
2012年	19.6
2013年	18.7
2014年	19.0
2015年	20.4
2016年	19.6
2017年	21.2
2018年	20.7
2019年	21.7
2020年	19.7
2021年	22.0
2022年	20.5

(再掲) 30-59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核

	発病～診断までの期間が 3か月以上の割合(%)
2002年	30.3
2003年	29.3
2004年	28.2
2005年	28.7
2006年	29.5
2007年	26.9
2008年	27.0
2009年	26.9
2010年	28.4
2011年	29.8
2012年	30.5
2013年	29.0
2014年	32.9
2015年	35.5
2016年	32.6
2017年	33.6
2018年	30.6
2019年	33.3
2020年	27.6
2021年	36.1
2022年	29.5

2002年～2006年までは発病から登録までの期間、2007年以降は発病から診断までの期間

発見が遅れた（症状発現から結核の診断までの期間が3か月以上）患者の割合は、1.5ポイント減少して20.5%となっている。このうち30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者に限定すると、発見が遅れた患者の割合は29.5%で、前年から6.6ポイントの減少となっている。

表11. 年次別 新登録肺結核培養陽性結核患者の薬剤感受性検査結果

() 内は構成比

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
新登録肺結核患者数	12,033	11,094	9,446	8,413	7,454
培養陽性患者数	9,016 (100.0)	8,110 (100.0)	6,645 (100.0)	5,902 (100.0)	5,231 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	55 (0.6)	44 (0.5)	46 (0.7)	41 (0.7)	26 (0.5)
(再掲) INH, RFP両剤耐性のうち外国出生患者	29	21	23	19	14
上記以外でINH耐性含む	322 (3.6)	315 (3.9)	251 (3.8)	180 (3.0)	174 (3.3)
上記以外でRFP耐性含む	32 (0.4)	21 (0.3)	14 (0.2)	15 (0.3)	15 (0.3)
その他耐性	372 (4.1)	339 (4.2)	268 (4.0)	239 (4.0)	223 (4.3)
HRSEすべてに感受性	6,734 (74.7)	5,899 (72.7)	4,583 (69.0)	4,038 (68.4)	3,617 (69.1)
HR感受性その他不明	55 (0.6)	40 (0.5)	47 (0.7)	38 (0.6)	31 (0.6)
未実施・他・不明	1,446 (16.0)	1,452 (17.9)	1,436 (21.6)	1,351 (22.9)	1,145 (21.9)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者	7,570 (84.0)	6,658 (82.1)	5,209 (78.4)	4,551 (77.1)	4,086 (78.1)
(再掲) 薬剤感受性検査結果判明者					
培養陽性患者数	7,570 (100.0)	6,658 (100.0)	5,209 (100.0)	4,551 (100.0)	4,086 (100.0)
INH, RFP両剤耐性	55 (0.7)	44 (0.7)	46 (0.9)	41 (0.9)	26 (0.6)
上記以外でINH耐性含む	322 (4.3)	315 (4.7)	251 (4.8)	180 (4.0)	174 (4.3)
上記以外でRFP耐性含む	32 (0.4)	21 (0.3)	14 (0.3)	15 (0.3)	15 (0.4)
その他耐性	372 (4.9)	339 (5.1)	268 (5.1)	239 (5.3)	223 (5.5)
HRSEすべてに感受性	6,734 (89.0)	5,899 (88.6)	4,583 (88.0)	4,038 (88.7)	3,617 (88.5)
HR感受性その他不明	55 (0.7)	40 (0.6)	47 (0.9)	38 (0.8)	31 (0.8)

INH, RFP両剤感受性検査結果判明者を薬剤感受性検査結果判明とした。

2022年の新登録肺結核培養陽性結核患者5,231人のうち、薬剤感受性検査結果が判明した者(INH、RFP両剤感受性検査結果判明者)は4,086人で、割合は78.1%となり、前年の77.1%から1.0ポイント増加となっている。このうち、多剤耐性肺結核患者数(INH、RFP両剤耐性の者)は26人で、前年より15人の減少となっている。また、多剤耐性肺結核患者26人のうち、14人が外国出生患者となっている。新登録肺結核培養陽性結核患者の多剤耐性結核割合は0.5%で前年から0.2ポイント減少となっている。また、薬剤感受性検査結果が判明した者のうち、主要4剤(HRSE)全ての薬剤に対し感受性のある患者の割合は88.5%となっている。

表12. 年次別 新登録結核患者の糖尿病合併あるいはH I V感染

(() 内は構成比)

区 分	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
新登録結核患者数	15,590 (100.0)	14,460 (100.0)	12,739 (100.0)	11,519 (100.0)	10,235 (100.0)
糖尿病ありの者	2,210 (14.2)	2,105 (14.6)	1,883 (14.8)	1,775 (15.4)	1,614 (15.8)
なしの者	11,630 (74.6)	10,680 (73.9)	9,117 (71.6)	8,257 (71.7)	7,122 (69.6)
不明の者	1,750 (11.2)	1,675 (11.6)	1,739 (13.7)	1,487 (12.9)	1,499 (14.6)
H I V 検査実施陽性者	44 (0.3)	29 (0.2)	31 (0.2)	30 (0.3)	25 (0.2)
H I V 検査実施陰性者	1,251 (8.0)	975 (6.7)	846 (6.6)	817 (7.1)	608 (5.9)
H I V 検査未実施者	4,757 (30.5)	4,942 (34.2)	4,292 (33.7)	3,838 (33.3)	3,401 (33.2)
不明の者	9,538 (61.2)	8,514 (58.9)	7,570 (59.4)	6,834 (59.3)	6,201 (60.6)

2022年の新登録結核患者のうち、糖尿病合併患者は1,614人で、新登録結核患者の15.8%となっている。また、HIV検査を実施した患者は633人で、新登録結核患者の6.2%にあたり、このうちHIV陽性は25人で、新登録結核患者の0.2%となっている。

表13-1. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（看護師・保健師）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総数	168 (1.1)	152 (1.1)	123 (1.0)	116 (1.0)	113 (1.1)
15～19歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	26 (2.0)	20 (1.7)	15 (1.5)	15 (1.6)	12 (1.5)
30～39歳	38 (4.3)	27 (3.5)	36 (5.2)	16 (2.7)	25 (5.0)
40～49歳	58 (5.6)	45 (4.6)	29 (3.9)	33 (5.2)	33 (6.0)
50～59歳	29 (2.5)	36 (3.4)	28 (3.0)	36 (4.3)	22 (3.0)
60～69歳	16 (0.9)	20 (1.4)	12 (1.0)	13 (1.2)	19 (2.1)
70～79歳	1 (0.0)	4 (0.1)	2 (0.1)	3 (0.1)	1 (0.0)
80歳以上	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)

2022年の新登録結核患者のうち、看護師・保健師からの登録患者は113人で、前年の116人から3人の減少となっている。新登録結核患者のうちの割合は1.1%と前年から0.1ポイントの増加となっている。年齢階級別では、40～49歳が最も多く33人となっており、同年齢階級新登録結核患者の6.0%となっている。

表13-2. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（医師）

（（ ）内は新登録に占める割合）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総数	34 (0.2)	39 (0.3)	33 (0.3)	27 (0.2)	20 (0.2)
20～29歳	3 (0.2)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)
30～39歳	3 (0.3)	5 (0.7)	7 (1.0)	5 (0.8)	2 (0.4)
40～49歳	5 (0.5)	5 (0.5)	8 (1.1)	5 (0.8)	0 (0.0)
50～59歳	10 (0.9)	6 (0.6)	4 (0.4)	5 (0.6)	4 (0.5)
60～69歳	4 (0.2)	8 (0.5)	5 (0.4)	4 (0.4)	6 (0.7)
70～79歳	2 (0.1)	6 (0.2)	5 (0.2)	3 (0.1)	4 (0.2)
80歳以上	7 (0.1)	8 (0.1)	3 (0.1)	4 (0.1)	3 (0.1)

2022年の新登録結核患者のうち、医師の登録患者は20人で、前年より7人減少となっている。新登録結核患者中の割合は0.2%となっている。30歳から69歳の年齢階級別新登録結核患者中割合は0.4～0.7%となっている。

表13-3. 年次別 医療従事者の新登録結核患者数（その他）

（ ）内は新登録に占める割合

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総数	225 (1.4)	221 (1.5)	223 (1.8)	212 (1.8)	192 (1.9)
15～19歳	3 (1.9)	1 (0.7)	1 (1.3)	2 (2.0)	0 (0.0)
20～29歳	30 (2.4)	33 (2.8)	38 (3.7)	47 (5.1)	54 (6.9)
30～39歳	57 (6.4)	37 (4.8)	51 (7.4)	38 (6.4)	29 (5.8)
40～49歳	38 (3.7)	62 (6.3)	42 (5.7)	44 (6.9)	35 (6.4)
50～59歳	52 (4.5)	50 (4.7)	46 (5.0)	35 (4.2)	34 (4.6)
60～69歳	38 (2.2)	30 (2.0)	34 (2.7)	33 (3.1)	24 (2.6)
70～79歳	7 (0.2)	7 (0.2)	10 (0.4)	11 (0.5)	15 (0.7)
80歳以上	0 (0.0)	1 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.0)	1 (0.0)

（注）その他：理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師等および介護職等、看護師・保健師・医師以外で医療機関に勤務する結核感染リスクが高いと考えられる者。

2022年の新登録結核患者のうち、理学療法士、作業療法士、検査技師、放射線技師など、看護師・保健師・医師以外の者で医療機関に勤務する者の登録患者数は192人で昨年の212人から20人の減少となり、新登録結核患者のうちの割合は1.9%となっている。年齢階級別では、20～29歳が最も多く54人で、同年齢階級新登録結核患者の6.9%となっている。

表14-1. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数

() 内は新登録に占める割合)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
合 計	869 (20.0)	762 (19.2)	673 (19.9)	600 (19.9)	513 (20.0)
20～24歳	52 (8.0)	50 (8.1)	51 (10.1)	56 (12.5)	39 (10.6)
25～29歳	73 (11.8)	60 (11.0)	75 (14.4)	65 (13.5)	60 (14.7)
30～34歳	79 (17.2)	59 (16.0)	62 (17.2)	50 (15.9)	57 (20.7)
35～39歳	89 (20.9)	85 (21.4)	73 (22.4)	60 (21.3)	47 (20.7)
40～44歳	80 (18.5)	78 (17.8)	73 (22.2)	59 (21.5)	46 (18.3)
45～49歳	142 (23.6)	129 (23.6)	89 (21.6)	72 (19.7)	62 (21.1)
50～54歳	153 (27.5)	134 (24.5)	114 (24.6)	126 (28.2)	88 (23.7)
55～59歳	201 (33.9)	167 (32.9)	136 (29.6)	112 (28.4)	114 (31.6)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

表14-2. 年次別 無職臨時日雇等の新登録結核患者数(男性、再掲)

() 内は新登録に占める割合)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
合 計	485 (18.6)	422 (17.7)	334 (17.3)	306 (18.2)	265 (18.2)
20～24歳	23 (6.2)	26 (6.8)	12 (4.8)	25 (10.6)	15 (7.7)
25～29歳	35 (10.0)	34 (11.2)	42 (14.3)	30 (11.5)	21 (9.8)
30～34歳	31 (13.1)	24 (11.9)	29 (15.5)	15 (9.7)	17 (13.0)
35～39歳	39 (17.0)	36 (16.8)	29 (19.0)	19 (13.9)	17 (14.7)
40～44歳	43 (15.9)	35 (13.7)	27 (15.2)	22 (16.1)	22 (16.7)
45～49歳	83 (22.6)	74 (23.3)	48 (18.4)	38 (17.5)	33 (19.2)
50～54歳	94 (25.1)	86 (23.4)	58 (19.9)	76 (28.0)	57 (22.2)
55～59歳	137 (34.1)	107 (31.6)	89 (28.4)	81 (29.6)	83 (35.2)

(注) 無職臨時日雇等：接客業、医療従事者、他の常用勤労者・自営業等、家事従事者、学生、その他不明を除く。合計は20歳～59歳の計。

2022年の新登録結核患者のうち、登録時の年齢が20～59歳であり、登録時の職業が無職臨時日雇等であった者は513人で、前年の600人から87人減少している。新登録結核患者のうちの割合は20.0%で前年から0.1ポイントの増加となっている。年齢階級別での患者数は、55～59歳が最も多い114人で、同年齢階級の31.6%となっている。

また、男性の患者に占める無職臨時日雇等の者の年齢階級別割合においても55～59歳が最も高く35.2%となっており、前年から5.6ポイント増加となっている。

表15-1. 前年(2021年)新登録結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	11,495	7,378 (64.2)	2,935 (25.5)	10 (0.1)	199 (1.7)	297 (2.6)	648 (5.6)	28 (0.2)
0～9歳	19	19 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10～19歳	108	97 (89.8)	0 (0.0)	1 (0.9)	0 (0.0)	6 (5.6)	4 (3.7)	0 (0.0)
20～29歳	929	724 (77.9)	2 (0.2)	0 (0.0)	12 (1.3)	115 (12.4)	71 (7.6)	5 (0.5)
30～39歳	592	491 (82.9)	6 (1.0)	0 (0.0)	8 (1.4)	45 (7.6)	40 (6.8)	2 (0.3)
40～49歳	642	559 (87.1)	6 (0.9)	0 (0.0)	14 (2.2)	18 (2.8)	45 (7.0)	0 (0.0)
50～59歳	842	715 (84.9)	40 (4.8)	2 (0.2)	10 (1.2)	19 (2.3)	55 (6.5)	1 (0.1)
60～69歳	1,063	849 (79.9)	104 (9.8)	2 (0.2)	21 (2.0)	15 (1.4)	71 (6.7)	1 (0.1)
70～79歳	2,237	1,568 (70.1)	484 (21.6)	4 (0.2)	46 (2.1)	17 (0.8)	112 (5.0)	6 (0.3)
80～89歳	3,428	1,799 (52.5)	1,340 (39.1)	1 (0.0)	57 (1.7)	45 (1.3)	175 (5.1)	11 (0.3)
90歳以上	1,635	557 (34.1)	953 (58.3)	0 (0.0)	31 (1.9)	17 (1.0)	75 (4.6)	2 (0.1)

2021年の新登録結核患者の2022年末での治療成績は、治療成功が64.2%、死亡25.5%、失敗0.1%、脱落・中断1.7%、転出2.6%、治療中5.6%、不明0.2%となっている。60歳以上から年齢階級の上昇にともなって死亡割合が増加し、60～69歳で9.8%、70～79歳で21.6%、80～89歳で39.1%、90歳以上で58.3%となっている。死亡の影響が少ない59歳以下の年齢階級の治療成功割合は77.9%～100.0%となっている。脱落・中断は40～49歳で最も高く2.2%となっている。

表15-2. (再掲)前年(2021年)新登録再治療結核患者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	460	301 (65.4)	104 (22.6)	0 (0.0)	14 (3.0)	12 (2.6)	29 (6.3)	0 (0.0)
0～9歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10～19歳	4	4 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
20～29歳	32	24 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.1)	5 (15.6)	2 (6.3)	0 (0.0)
30～39歳	20	19 (95.0)	1 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
40～49歳	39	35 (89.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.6)	2 (5.1)	1 (2.6)	0 (0.0)
50～59歳	33	26 (78.8)	1 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (18.2)	0 (0.0)
60～69歳	47	32 (68.1)	7 (14.9)	0 (0.0)	3 (6.4)	1 (2.1)	4 (8.5)	0 (0.0)
70～79歳	88	61 (69.3)	17 (19.3)	0 (0.0)	3 (3.4)	1 (1.1)	6 (6.8)	0 (0.0)
80～89歳	138	79 (57.2)	48 (34.8)	0 (0.0)	2 (1.4)	3 (2.2)	6 (4.3)	0 (0.0)
90歳以上	59	21 (35.6)	30 (50.8)	0 (0.0)	4 (6.8)	0 (0.0)	4 (6.8)	0 (0.0)

2021年の新登録再治療結核患者の2022年末での治療成績は、治療成功が65.4%、死亡22.6%、失敗0.0%、脱落・中断3.0%、転出2.6%、治療中6.3%、不明0.0%となっている。

表15-3. 前年(2021年)新登録潜在性結核感染症(LTBI)治療開始者の治療成績

	総数	治療完了 (%)	死亡 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	5,071	4,318 (85.2)	162 (3.2)	348 (6.9)	58 (1.1)	172 (3.4)	13 (0.3)
0～9歳	310	284 (91.6)	0 (0.0)	5 (1.6)	6 (1.9)	15 (4.8)	0 (0.0)
10～19歳	77	74 (96.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.9)	0 (0.0)
20～29歳	422	361 (85.5)	1 (0.2)	20 (4.7)	18 (4.3)	19 (4.5)	3 (0.7)
30～39歳	411	365 (88.8)	0 (0.0)	22 (5.4)	9 (2.2)	14 (3.4)	1 (0.2)
40～49歳	541	473 (87.4)	1 (0.2)	41 (7.6)	6 (1.1)	20 (3.7)	0 (0.0)
50～59歳	698	620 (88.8)	2 (0.3)	52 (7.4)	4 (0.6)	17 (2.4)	3 (0.4)
60～69歳	739	630 (85.3)	19 (2.6)	60 (8.1)	2 (0.3)	25 (3.4)	3 (0.4)
70～79歳	1,099	924 (84.1)	59 (5.4)	79 (7.2)	7 (0.6)	28 (2.5)	2 (0.2)
80～89歳	649	502 (77.3)	63 (9.7)	54 (8.3)	5 (0.8)	25 (3.9)	0 (0.0)
90歳以上	125	85 (68.0)	17 (13.6)	15 (12.0)	1 (0.8)	6 (4.8)	1 (0.8)

2021年の潜在性結核感染症新登録者のうち治療を開始した者の2022年末での治療完了率は85.2%となっている。脱落・中断は6.9%となっているが、高齢になるにつれて脱落・中断は高くなる傾向があり、80～89歳では8.3%、90歳以上では12.0%となっている。

表15-4. 前々年(2020年)新登録結核患者で多剤耐性の者の治療成績

	総数	治療成功 (%)	死亡 (%)	失敗 (%)	脱落・中断 (%)	転出 (%)	治療中 (%)	不明 (%)
総数	55	39 (70.9)	10 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (7.3)	1 (1.8)	1 (1.8)

(注) 表15-1～表15-4: 2021年末までの治療成績

2020年の新登録結核患者で多剤耐性結核患者の2022年末での治療成績は、対象55人のうち治療成功70.9%、死亡18.2%、失敗0.0%、脱落・中断0.0%、転出7.3%、治療中1.8%、不明1.8%となっている。

率の算出に使用した人口について

総人口、年齢階級別人口、日本人人口および都道府県人口は、「人口推計」（総務省統計局）（<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/>）（2023年6月29日に利用）を用いた。